

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 2月 第108号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

『せいりょう園介護心得』—感性と感覚—

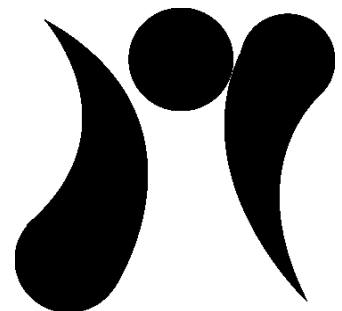
高齢者は、要介護になって最期を迎えるまでの暮らしを他者に委ねながら、社会人としての最後の役割を果たして、自らの人生を締め括ります。社会で長く生きてきた高齢者は、例え要介護になり、思うように心身の機能が働かなくなっても、

- 1 自然の移り変わりを感ずるとき
- 2 人の気配や視線に気付くとき
- 3 生活の匂いや雰囲気にも包まれるとき

長い社会生活で培ってきた自らの感性や感覚が働いて、生きていることを実感し、今の自分が持っている力の全てを尽くして、懸命に生きようとされます。知性や理性や体力を徐々に失う中で、生活者としての自信と誇りを支えている感性と感覚に気付いて下さい。

その人の感性や感覚に働きかける生活空間を創り出す事が、介護者の務めです。介護者としての気付きを磨くとき、自分の生活を彩る感性や感覚が研ぎ澄まされ、やがては自分自身の老いの暮らしを支える力に発展します。

要介護期間は、遺伝子でも理論でも伝えることの出来ない感性や感覚を伝える、貴重な経験の宝庫です。要介護になる事でしか果たせない役割を自覚したいと願います。



1 喜びを生む介護

高齢期を生きる人にとっては、自らの生命の営みが完結し、人生を締め括る瞬間を如何なる姿で迎えるのか、が人生最後の課題であり、社会人としての重要な役割です。その為の準備の時間が十分に用意されているのが、高齢社会の特性です。そしてご本人とご家族と介護職の協働により解決を図る為に、介護保険が創られました。

最期を迎える準備を整える中で、お互いに最期の瞬間を受止める覚悟を固め、精神的な余裕を学び、ご本人はその姿を通して社会の一員としての役割を終えて、人生を締め括ります。

ご家族としても、介護職としても、準備を整えて迎えた最期の瞬間を見届けた後には、充実感や達成感を持って介護した喜びを感じることが出来るのです。最期に備えて協働するとき、ご家族にも介護職にも、精神的な疲労は生じない、と信じます。

2 要介護で生きる姿は学びの宝庫

人は老いに伴い様々な心身の機能が低下し、様々な事柄が出来なくなっていく中でも、長年の生活で培った感性や感覚を駆使して、心地良い居場所を探り、適度な距離を測り、今を懸命に生きていきます。

知性も理性も体力も低下していく中でも、自然の移り変わりを感じる時、人の気配や視線に気付くとき、生活の匂いや雰囲気にも包まれるとき、多くの関係性の中で生きていることを実感し、今在る事を感謝し安堵して、全力を尽くして懸命に生きています。

全力を尽くして懸命に生きる事こそ、全ての人に共通する普遍的な生きる価値であり、社会人としての最も基本的な生きる姿勢です。その姿に接する事で次世代の人が、社会を構成して生きて行かざるを得ない人間にとって最も大切な社会性に気付き、思想を学び、身に付ける努力を始めます。

知的障害児の懸命に生きる姿に接した糸賀一雄氏は数十年も前に、その姿に普遍的な生きる価値を見出し、『この子らを世の光に』と言われました。

要介護の状態で生まれた人や、人生の途上で要介護になった人を、在りのままの姿で受け入れ、その姿から人間のみが持つ思想や社会性を学び、将来に亘って持続可能な社会を実現したい、と心より願います。

せいりょう園待機者状況

<平成22年 2月10日現在>

○入所判定済み者 325名

グループの内訳

Iグループ…113名/IIグループ…138名/IIIグループ…66名

○入所判定済み者の現在状況

在宅120名/特別養護老人ホーム入所中9名/医療機関入院中90名

老人保健施設入所中78名/ケアハウス入居中5名/グループホーム入居中10名/不明5名

辞退その他

せいりょう園入所1名/他施設入所1名/辞退2名/死去4名



講師 真言宗如意寺福岡有法ご住職

本年最初の仏教講話は加古川町木村にある真言宗如意寺の福岡有法ご住職に来て頂いた。冒頭に『法話というよりは仏教に関して少し解説をしたい』というお言葉があり、講話はスタートした。ご住職のお寺では毎年、秋に『塔婆回向(とうばえこう)』を開かれているようで、その時檀家の人たちに仏教に関するいろいろなものの解説をされている。それは『お墓、仏壇、戒名、数珠』等々。ものによっては宗教性が強く、宗派によって解釈を異にすることも考えられるので今回はそういうものを避け『仏像』についてお話を頂いた。

そもそもいつ頃から仏像が彫られたのか？諸説あるが現在有力視されているのは紀元1世紀頃、インドのガンダーラ地方で作られたという説。もう一つは同じ頃やはりガンダーラの近くのマトゥラー地方で彫られたという説がある。当時の仏像のモデルはすべてお釈迦様であった。お釈迦さまが仏教を開かれたのは紀元前5世紀頃であるから、5～6百年は仏像は無くもっぱら礼拝の対象は仏塔か菩提樹であった。先の仏像はガンダーラ製で、その特徴は仏像の顔の彫りが深く、髪もカールしていて西洋的で、もう一方のマトゥラー製は東洋的である。我が国最初の仏像は6世紀の仏教伝来の頃、百済の王から朝廷(欽明天皇)に献上された。仏像の種類には、1. 如来 2. 菩薩 3. 明王 4. 天・神 があり、これはランク付けになっており、5番目に高僧(例：空海、最澄・・・)が続く。

*如来：出家後の釈迦がモデルで、修行を完成し悟りを開いたものを意味する。即ち仏であり最初は如来のみ仏であった。如来には、『釈迦、阿弥陀、薬師、大日』如来等がある。衆生(しゅじょう)を教え導き救済することを使命とし、その遂行のリーダー的存在。高貴な地位、財産を捨てて出家した釈迦がモデルであるため如来像は衣のみを身につけ宝冠、装飾品などは身につけない。但し、薬師、大日如来についてはこの限りではない。

*菩薩：出家前の釈迦がモデル。本来は十分に修業を積み、如来になるだけの力量を具えているが、衆生と近い立場で救済するため、敢えて菩薩のままとどまっている。その役割は如来が衆生を救済するときの補佐役、実務担当。出家前の釈迦、つまり釈迦族の王子としての裕福な姿をイメージしているため、宝冠や装飾品を身につけたものが多い。菩薩には『観音、地藏、弥勒、文殊、普賢、勢至、虚空蔵』菩薩がある。

*明王：大日如来の化身とされ、古代インドの神々が仏教にとりいれられ、独自に発展したものの。五大明王『不動、降三世：ごうざんぜ、軍荼利：ぐんだり、大威徳：だいいとく、金剛夜叉』の他に愛染、孔雀、烏枢沙摩：うすさま、などがある。如来や菩薩のように慈悲の心で教え導いても言うことを聞かない強い煩惱をもった衆生や修行の邪魔をする仏教の敵などに有無を言わせず教化(きょうけ：仏道へと教え導く)させる役。その為、怒った顔で眉を吊り上げ目をむいた分怒の面相をしている。さらに蛇などを身にまとい、武器を持ったものもある。

*天・神：明王同様古代インドの神々が仏教に取り入れ、守護神にしたもので、如来、菩薩、明王につかえて仏教や衆生を護るガードマン役。山門で警護する仁王や、本堂や本尊の四方を守る四天王が代表。特徴としては、インドの神々が仏教的にアレンジされているため姿形も様々である。

予定時間をオーバーして、熱心にご講話下さいました。私たちの周りにはいろいろな仏像がある。これまでと違った見方が出来そうである。有難うございました。

加古川認知症家族の会(通称:加古川元気会)

ご入会案内

この度、「加古川認知症家族の会」が発足いたします。

兵庫県内には幾つかの家族会がありますが、本人も参加でき、より身近な地域で日頃の思いを語り合い、そしてより元気がでるような会を目指しています。

病気の進行に伴って毎日、本人は新しいものに出会い、そして、戸惑いながらも力いっぱい生きています。家族もその変化に気づき、本人や家族の輝きを大事にし、より豊かに普通に暮らせればと思っています。その結果、本人や家族が人として高められれば幸いです。

どうぞ、若年性・高齢を問わず、お気軽にご参加願います。

記

- 1 名称 加古川認知症家族の会(通称:加古川元気会)
- 2 日時 毎月1回 定例会 午後1時～3時
(定例日は、会員で別途協議の上で決定)
- 3 場所 リバティかこがわ2階ダイルーム
(野口町長砂95-2・かこバス東加古川駅ルート長砂公民館前停留所下車)
- 4 事業
 - ① 楽しかったことなど、日頃の思いを語り合う集い
 - ② 耳よりの情報交換
 - ③ ミニ講座
 - ④ 歌声喫茶
 - ⑤ 認知症サポーターによる個別相談
 - ⑥ 『せいりょう園のびのびルーム』への参加(無料)
(自彊術・カラオケ・映画会・ピアノ教室)
- 5 会費 年1200円(月100円)
- 6 会員 特に制限はありません
- 7 運営 会員による自主運営とし、会則は別途協議の上で決定
- 8 事務局 加古川市野口町長砂481 吉田正巳
TEL・FAX 079-422-7387
携帯 090-9690-6665
メール mayu-19@bb.banban.jp

ケアハウス等空き情報 <平成22年 2月15日現在>

<<ケアハウス>>

- | | | | |
|-----------|----------|------------|----------|
| ・恵泉 | : 若干 | ・第二ケアハウス恵泉 | : 若干 |
| ・シスナブ御津 | : 1人部屋2室 | ・あさなぎ | : 2人部屋1室 |
| ・むれさき苑 | : 1人部屋1室 | ・サリットひまわり園 | : 1人部屋1室 |
| ・ケアハウスアリア | : 1人部屋3室 | | |
| ・青山苑 | : 1人部屋4室 | ・香楽園 | : 1人部屋2室 |
| | : 2人部屋2室 | | : 2人部屋1室 |

[問合先]せいりょう園介護相談室

TEL(079)421-7156/(079)424-3433

「加古川認知症家族の会」加入のお願いについて

グループホームで認知症のお年寄りと共に暮らすとき、その旺盛な生活力や生命力に随分と驚かされます。生活全般では辻褃の合わない部分も多く現れますが、今の一瞬一瞬にベストをつくして懸命に生きようとするその姿に、人が生きる上での最も大切な価値を教えてください。

適者生存の社会で高齢期まで生きてきた人は、正に社会生活の適者であり、長い生活で培った柔軟で逞しい生活力を内に秘めて暮らされています。

認知症で辻褃の合わない暮らしの中でも、経験則として身に付いた感性や感覚や感情を駆使して、自らの居場所を探し当てておられます。

グループホームは、その経験則が十分に発揮できる生活環境を目指して、様々な取り組みを模索しています。ご家族の皆様方と協力し合い、分担し合っこそ、その人らしい生活を全体として支える事が可能になります。我々職員も人として輝き高めあう業務を行ない、認知症の人が普通に暮せる地域社会を目指して、ご家族の皆様方との協働を願っています。

『加古川認知症家族の会』の発足をお祝いし、多くの皆様方のご加入をお願いし、協会としても最大のご協力をお約束いたします。

2市2町グループホーム協会
会長 渋谷 哲

平成21年度第4回

グループホーム・小規模多機能運営推進会議の報告

- * 平成22年1月16日（土）特養せいりょう園にて
- * 参加者： 運営推進委員10名、職員2名、入居者・家族2名
- * 内容： 行事報告・介護者の集いの報告・実習生受け入れ実績報告
ひやり、はつと事故報告・2市2町グループホーム勉強会の報告
外部評価（12月7、8、9日実施）の報告
利用者家族に依頼したアンケートの集計結果の資料を参考に参加者全員で
問題点を検証した
情報の公表（12月17日調査）の報告
- * 意見交換（認知症の方に対しての想い）
委員より
 - ・ 認知症の方と接してみた時、自分自身がどうあるべきなのか考えてみる。年齢を重ねてきた今、色々なことが学べる良い機会であると思う
 - ・ 身内に認知症の人が居るが、その人を中心にした生活サイクルを組み立て、家族が一丸となって支えあっている（中々できないことである）
 - ・ 自身の周りにも認知症に対しての理解が薄い人が沢山いる。認知症の方を介護したり何らかの関わりのある人はその特徴的な症状を機会がある毎に伝えていく、そのことで理解者の数も今よりもっと増えていくのではと思う
 - ・ 認知症になっても疎外されることのない世の中になればと願う

介護者の集いー認知症サポーター養成講座ー テーマ「生活の質を考える」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

去年の11月の介護者の集いは「施設入所にいたるまで」というテーマで開催し、せいりょう園では申し込んでから入所に至るまでに、様々な生活上のリスクを事前に説明しているというお話をさせていただきました。今回は自宅で転倒し骨折、病院へ入院となった方の生活の質と退院後にどのような選択肢があるのかについて事例をもとに話し合いました。

「生活の質を考える事例」

《例》

花子さん80歳女性。要介護2 認知症あり（その時の意思疎通や会話理解はあるが、すぐに忘れてしまう。）

デイサービスとホームヘルパーのサービスを使いながら長男家族と同居生活をしていました。（家族構成＝花子さん、長男夫婦の3人暮らしで花子さんの子供は長男だけ）

花子さんは、普段自宅にいる時は、何とか手すりやベッド柵を持ち、自力で短い距離なら移動が出来るが、デイサービス利用時など長距離の移動は車椅子を使用していました。

長男夫婦は共に働いており、デイサービスを利用しない日は、花子さん一人、家でTVを観て過ごし、特に問題行動はなく過ごしていた。認知症はあるが排泄もベッド横に設置しているポータブルトイレでベッド柵につかまりながら何とか自力で排泄が出来ていた為、長男夫婦は、花子さんにはデイサービス利用しない日、ホームヘルパー訪問時間以外は自宅で一人で過ごしてもらっていた。

ある日、花子さんは、トイレに移ろうとベッドから立ち上がり下着衣を下そうとした瞬間、バランスを崩し転倒。その後、長男嫁が帰宅しベッド横で動けなくなっている花子さんを発見する。花子さんの意識はしっかりしているが、左足付け根の痛みが強く、介助しても痛みで起き上がることが出来ず、長男の嫁は、救急車を呼び、病院へ。検査の結果、左大腿骨頸部骨折と診断ある。

骨折の治療には手術が必要であり、少なくとも数週間の入院が必要であると医者より説明があり、そのまま入院することとなる。入院が決まると、トイレに行かなくてもいいように尿道にバルーンカテーテル（導尿）が留置され、ベッドで安静にするように指示ある。

長男家族は、夕食の介助を済ませ、花子さんに大人しく寝ているように伝え帰宅。

翌日、病院から電話があり、面会に行くと、「昨夜、自力でベッドから起き上がり（導尿しているが）トイレへ行こうとし大変であった」と伝えられる。

認知症があり、その時の会話理解はあるが、ベッドから起き上がろうとしたり、トイレに行こうする為、「起き上がらないようにするか」、「家族が24時間付き添うか」のどちらか選択して下さいと言われ、家族は、仕事があり、終日の付き添いが出来ないので、身体拘束（前者）を選択し同意書にサインした。

その後、花子さんはベッド柵に両手を縛られ、翌日、（接合）手術を行う。手術は成功し、翌日からベッド上でベッドの頭側を挙げ、90度の座る姿勢をとることからリハビリが開始され、1週間後、ベッドから車椅子へ移って座る姿勢を保つ訓練を始める。（日中は「リハビリの為、ベッドから起きて欲しい」と言われ、夜間は「危ないので動かないで下さい。」と言われた、花子さんは困惑してしまう。）

3週間後、花子さんは無事、抜糸を終え、医者より順調に治療が進んでいるので、「あと1週間もすれば退院出来る」と家族へ伝えられる。

《検討内容》

この病院は、急性期の治療のみの病院で、リハビリ機能はありません。

花子さんは、骨折の治療は終了しましたが、車椅子に座れるまでの回復は出来たものの骨折前の「自力でトイレに行く」等の機能まで回復出来ず、また、入院中の身体拘束により認知症が進み、

- ・家族以外は誰か分からない
- ・尿意・便意がわからない
- ・夜中に大声を出す

等の症状が出ています。

**☆今後の、花子さんの「生活の質」を考えた場合、退院後、花子さんにとってより良い選択肢は、
どういったことでしょうか？**

(選択肢例)

- ① 骨折前の身体機能に戻るまで、(老人保健施設などの)リハビリ施設に入所する。
- ② 自宅へ戻り、在宅サービス内容を変更しながら在宅生活をする。
- ③ ①もしくは②を行いながら、自宅ではみられない可能性が出てくる為、早急に特養の入所申し込みをする。
- ④ その他

○グループワーク

それぞれの選択肢で出た感想

- ① 骨折前の身体機能に戻るまで、(老人保健施設などの)リハビリ施設に入所する。
 - ・機能の改善を考えるのであれば、家では甘えがあるので、老人保健施設などの施設でしっかりリハビリを行ったほうが本人にとっても家族にとっても良いのではないか。
 - ・たとえ認知症があったとしても、以前出来ていたことを出来るようになりたいと思うのでは？
 - ・本人は良くなりたいと思っているのだろうか？リハビリが重要ではなく本人がどうしたいか、家族がどうしたいかが重要なのではないか。
- ② 自宅へ戻り、在宅サービス内容を変更しながら在宅生活をする。
 - ・親の介護をしていた時に同じように骨折したが、その時のアドバイスでリハビリを受けなくても早く退院し、生活の中でゴソゴソしていることがリハビリになると教えられたので、自宅でも良いかと思う。
 - ・自宅に戻り、骨折が治ったとしてもまた転倒の可能性はある。
 - ・長男夫婦といっても奥さんばかりが介護を負担することになるので、戻ってきた場合は家族の介護疲れも考えなければならないのではないか。
 - ・自宅で介護を続ける秘訣は、介護をする側もされる側も気を長く持つことである。
- ③ ①もしくは②を行いながら、自宅ではみられない可能性が出てくる為、早急に特養の入所申し込みをする。
 - ・自宅に戻る為の治療やリハビリなのに、施設の入所をするのであれば、病院や老人保健施設でのリハビリは何の為のリハビリなのだろうか。
 - ・どちらにせよ本人が納得して入所していただければ良いのではないか

- ・自宅といっても本人の最低限の生活も確保出来ない場合があるので、施設入所が望ましい場合もある。
- ・自宅でも施設でも、どこにいても転倒の危険性があるので、本人の生活を尊重するのであれば事前にリスクの説明が必要である
- ・病院で拘束される生活よりも、リハビリはせずに施設での生活のほうが質としては高いのでは。

感想

老人ホームの入所申し込みを受ける際のご本人の状態が多いのが、骨折をされていたり、脳梗塞が原因で介護が必要な状態となって、病院や老人保健施設に入所されている方のように思います。今まで一人で何でも出来ていた方が、急に介護が必要になってしまう姿を見ている家族にとっては、自宅に戻って自分たちで介護が本当に出来るのだろうか、となかなか自宅で介護をするイメージは浮かばないのだと思います。この時点で本人の生活の場所としての選択肢はすごく少ないものになってしまうように思います。

身近に介護が必要になった方と接することが、少なからずあると思います。今回の事例のように、判断を迫られる場合にも遭遇するかもしれません。その時にどのような判断をするべきなのか。そのヒントになるのが、本人の生活の質とは何か、について考える事だと思うのです。実現できるかどうかは別として、本人にとって質の高い生活とは何かを考え、皆で共有することが大切なのだと思います。

これから、もし、介護が必要な方や家族から相談をされた時には、本人にとっての生活の質とは何か、について投げかけていただければ、違った視点の意見が出るかもしれません。

次回の介護者の集いは？

- | | |
|-----------|--------------------|
| 2月の介護者の集い | テーマ「認知症のおさらい」 |
| 3月の介護者の集い | テーマ「認知症のおさらい パート2」 |

せいりょう園 毎週の行事

月曜日	のびのびルーム (自彊術)
火曜日	のびのびルーム (映画会)
水曜日	のびのびルーム (カラオケ)
	音楽療法
	自彊術療法
	お話グループ・福寿草の会
木曜日	のびのびルーム (自彊術)
金曜日	ピア/教室
	陶芸教室
第2火曜日	折り紙教室
第1・3火曜日	書道教室
第2・4金曜日	ひより手芸教室

せいりょう園 3月の行事予定

3月 1日(月)	仏教講話
3月 2日(火)	日岡保育園との交流会
3月 3日(水)	ひな祭り
3月 6日(土)	園長との懇談
3月15日(月)	美容の日
3月18日(金)	昼食会
3月21日(日)	春分の日
3月22日(月)	彼岸の法要
3月24日(水)	郷土料理
	消防訓練
3月26日(金)	介護者の集い
	～認知症のおさらいパート2～
3月29日(月)	理容の日